

おかやまじょうさんのそとくるわ

# 岡山城三之外曲輪現地説明会資料

岡山市教育委員会

日時：平成25年2月2日(土)

場所：岡山市北区中山下

はじめに

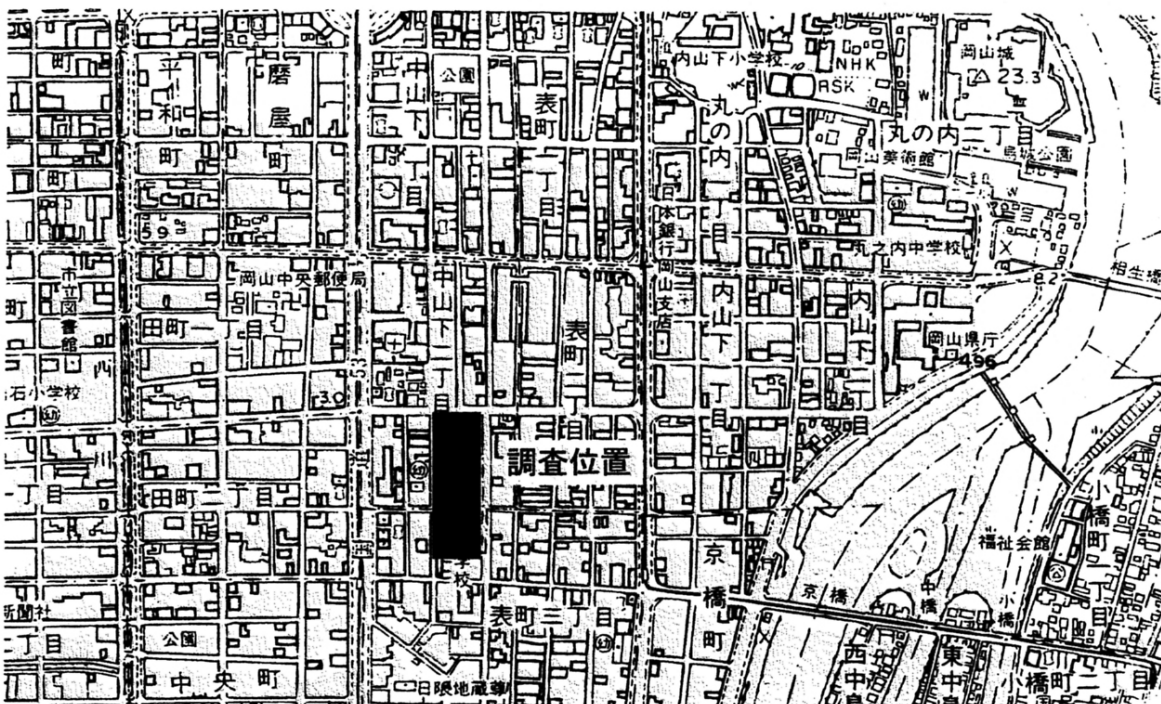
岡山市教育委員会では、病院の建設に伴い、岡山城三之外曲輪の発掘調査を、平成24年4月末から実施しています。発掘調査の結果、江戸時代の遺構群がみつき、かつての岡山城城下町における武家屋敷街の様子が少しずつ明らかになってきました。調査は現在も続行中ですが、この機会にこれまでの成果を公開いたします。

遺跡の概要

岡山城三之外曲輪は、岡山城本丸の西側の、外堀と中堀に囲まれた一帯を指し、調査地点はこの中に位置しています

岡山城城下町は、岡山城主宇喜多秀家による、天正一八年(1590)～慶長二年(1597)にかけての岡山城改築に伴って整備されていったと考えられます。しかし三之外曲輪における今までの調査では、江戸時代以前にさかのぼる明確な遺構は現在のところみつかりません。

江戸時代になると三之外曲輪は武家屋敷街となり、調査地点も幕末まで武家屋敷として利用されていたようです。江戸時代に描かれた各種の城下町絵図から、調査地点には複数の武家屋敷が建ち並んでいたことが確認できます。



第1図 調査位置図(1/10000)

## 調査の概要

### 【江戸時代前期】(17世紀)

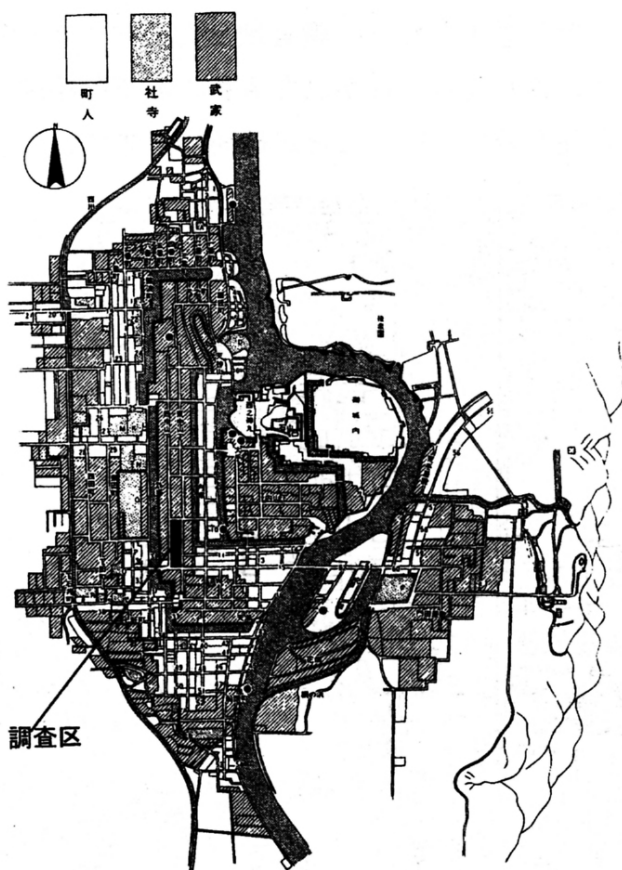
江戸時代の初め頃(17世紀初頭)には既に武家屋敷地であったと考えられ、武家屋敷地を東西にあるいは南北に区切る素堀りの溝や堀、ゴミ穴や土坑などの遺構がみつかりました。また陶磁器、漆器、木製品金属製品などが多く出土しています。陶磁器の中には、中国から輸入された磁器や、志野焼や織部焼などの茶道に深く関わる陶器などもあり、当時の武士たちの文化的な生活の一端がうかがえます。

### 【江戸時代中期】(18世紀)

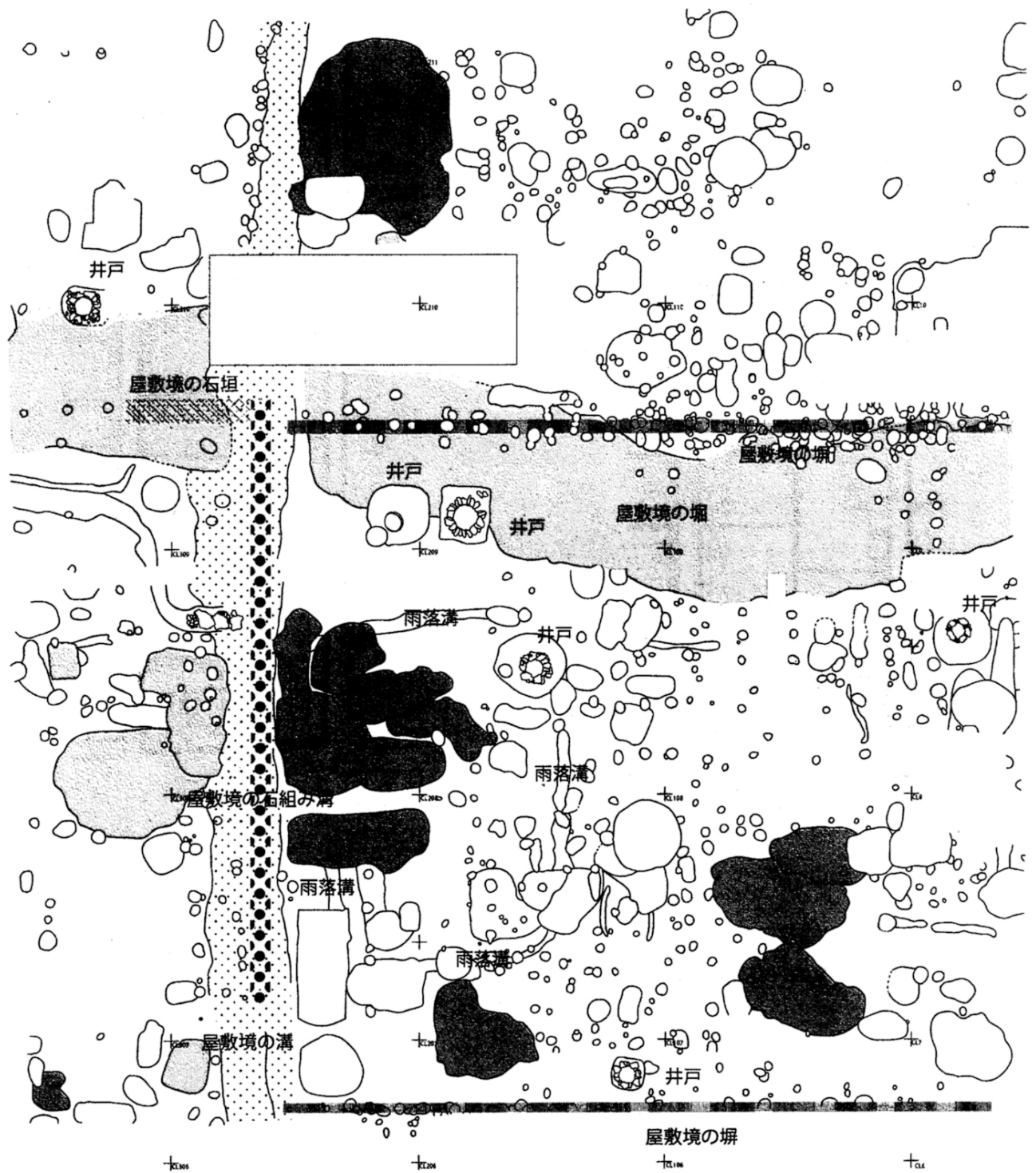
17世紀に引き続いて武家屋敷地であったと考えられます。素堀りの堀や溝は埋められてしまいましたが、その上には屋敷地を区画する塀や、石組みを持った溝が造られたようです。その他井戸、ごみ穴、建物の柱跡など非常に多くの遺構がみつかりました。遺物も陶磁器類、木製品、金属製品など非常に多くの遺物がみつかっています。陶磁器の中には大型の皿や鉢などのおそらく宴に供せられたと思われるものや、根付けなどの装身具などもあり岡山城城下町における都市的生活を窺わせるものもあります。

### 【江戸時代後期】(19世紀)

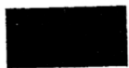
武家屋敷であったと考えられますがこの時期の遺構は多くはなく、いくつかのごみ穴がみつかったのみです。しかし多量の陶磁器類がみつかり、この時期の遺構は明治時代以降、学校造成や、市街化の影響などで消滅しているものと考えられます。



第2図 岡山城下町図(出典:岡山県史・近世I)

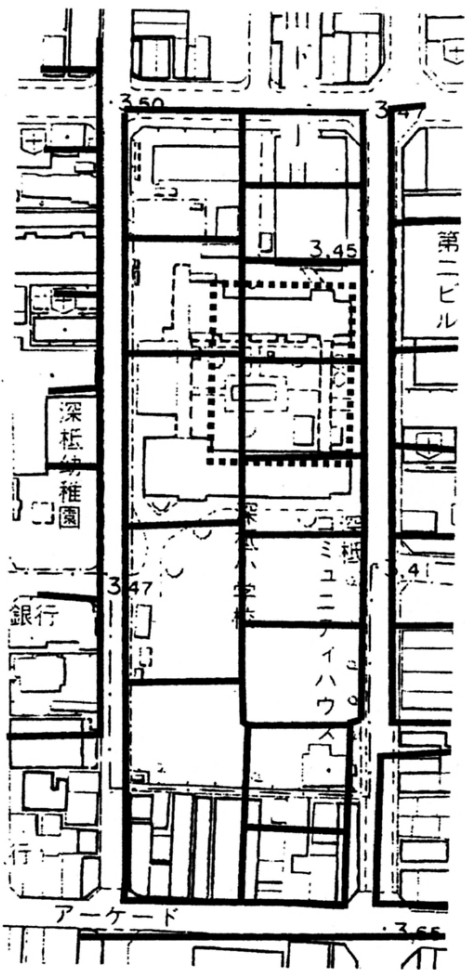


17世紀の遺構

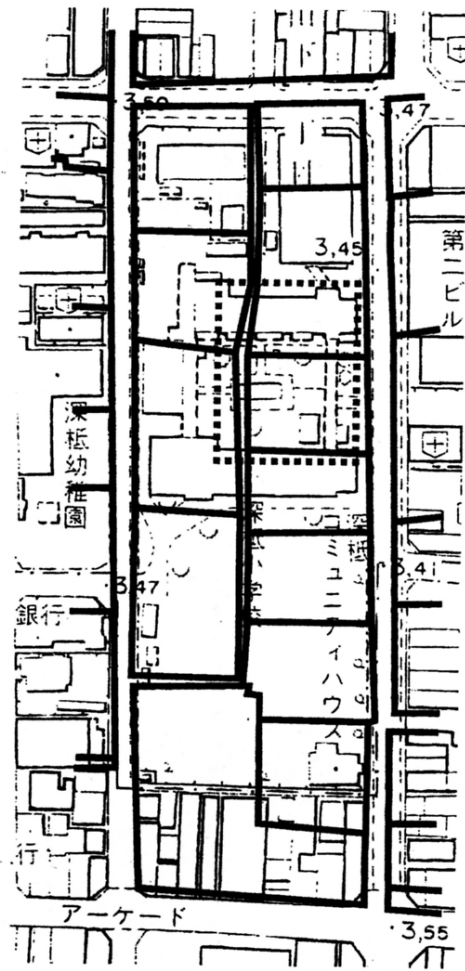


18世紀の遺構

第3図 遺構平面図



「岡山古図」  
寛永九年(1632)



「備前岡山地理家宅一枚図」  
文久元年(1861)

- 城下町絵図にみられる屋敷割
- ..... 調査区(公開範囲)

第4図 岡山城下町絵図にみる調査区内の地割